

# 受動喫煙3割増

## 外出自粛や在宅勤務で

吸う量増加、ストレスも

### コロナ影響

#### 新型コロナと喫煙に関する調査結果

※国立がん研究センターによる

喫煙する同居人からの受動喫煙が増えた	33.7%
コロナ禍で吸う量が増えた喫煙者	18.0%
喫煙増加の理由はストレス	49.4%
屋内外の喫煙所閉鎖に賛成	58.3%
コロナ重症化リスクを減らすため「禁煙」に取り組みたい	25.3%

国立がん研究センターは三十一日、新型コロナウイルス流行による外出自粛や在宅勤務の影響で、たばこを吸う同居人からの受動喫煙が増えたと答えた人が33.7%に上ったとする調査結果を発表した。三十一日は世界保健機関(WHO)が定めた「世界禁煙デー」。同センターの平野公康研究員は「自宅にいる時間が長ければ受動喫煙の機会が多くなり、健康への影響が懸念される」としている。

喫煙者はコロナに感染した際の重症化や死亡のリスクが高いことが示されているのに加え、生活様式の変化に

よるストレス増加で喫煙量が増えることが心配されている。同センターは今年三月、たばこを吸う人と吸わない人それぞれ千人の成人にアンケートした。同居人からの受動喫煙に関する質問では、同居人の喫煙の有無にかかわらず、回答が得られた吸わない人八百十八人のうち「受動喫煙が増えている」と答えたのは10.6%だったが、喫煙する同居人がいる人に限ると33.7%に上った。喫煙者に吸う量が増えているかどうかを問うと、増えた人が18.0%で、減った人は11.4%、変わらない人は69.6%。喫煙量増加の理由はストレスが49.4%で、「職場は禁煙だが自宅は制約がない」が33.9%だった。

国立がんセンター調査

### 県内各地に黄緑色の光

受動喫煙防止推進  
受動喫煙防止を推進する「イエローグリーンキャンペーン」ライトアップは三十一日、県内各地で始まった。

キャンペーンに賛同する県内の約四十団体が六日まで、事業所などに黄緑色のライトをともし、喫煙マナーの向上を呼び掛けている。受動喫煙防止の啓発を目的に、県内の医師らで設立した団体「T

obacco-free eふくしま」の主催、県、県医師会の共催。

禁煙週間に合わせ、東北電力センターなどが協力し、鉄塔などをライトアップしている。



黄緑色にライトアップした福島電力センターの鉄塔